

(第76回) プロジェクト・制度評価分科会の評価結果について

NO. 2-2	事業名 : ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現プロジェクト (終了時評価 / プロジェクト評価) ロボット・AI部			
事業期間 : 2017年度～2022年度の6年間		費用総額 : 187億円		
委員構成、ポートフォリオ	委員名	NEDO委員歴		
		前身 事業	事前 評価	中間 評価
<p>「多くの物流無人航空機が都市部で飛行できる社会」「有人ヘリコプター等と「同一空域」で安全に飛行できる社会」の実現を目指し、本プロジェクトでは、物流、インフラ点検、災害対応等の分野で活用できる無人航空機及びロボットの開発を促進するとともに、社会実装するためのシステム構築及び飛行試験等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分科会長は評価の連続性を考慮し中間評価を担当された方を選定 航空機に求められる安全性を熟知している、元国土交通省 航空局 安全部 部長を新たに選定。 性能評価、安全性評価の標準化を評価頂くため、IECやISOの議長や政府検討会の経験者を委員に選定。 ユーザー視点の評価として、*元無人航空機の制御アルゴリズム開発や無人ヘリコプター開発に関わり、現JUAV(日本産業用無人航空機工業会) 顧問の方々や建物などのインフラ点検にドローン活用の研究者を委員に選定。 	小林 哲則 分科会長 早稲田大学 理工学術院 情報理工学科 教授			○
	高野 滋 分科会長代理 ANA総合研究所 顧問			
	市川 芳明 委員 多摩大学 ルール形成戦略研究所 客員教授			
	岩本 学 委員 株式会社日本政策投資銀行 産業調査部 兼 航空宇宙室調査役			
	佐藤 彰 委員 静岡理工科大学 理工学部 機械工学科 教授			
	堀口 賢一 委員 大成建設株式会社 技術センター 社会基盤技術研究部 主任研究員			
	*米田 洋 委員 帝京大学 理工学部 航空宇宙工学科			
評価コメント				
肯定的意見	今後への提言			
<ul style="list-style-type: none"> 本事業の推進にかかわった実施者は、ドローンに関する技術力を有し、その能力を適切に発揮して事業を推進したと認められる。 性能評価手法、運航管理技術と衝突回避技術の開発など、必要な施策が網羅的に取り組まれた。 改正航空法の施行により、レベル4などを目指した機体開発が行われると予想されるなか、本プロジェクトでおこなった「性能評価手法」、「運航管理技術」、「衝突回避技術」が重要になると思われる。 知財・標準化戦略では、オープン、クローズの考え方は適切に設定されており、国際標準における取り組みは妥当なものであった。 特許出願や論文発表、国際標準化の提案、基準作りなど、多くの成果が得られており、国際標準化では、本事業を活用したISOの規格が3件公開に至るなど目覚ましい成果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ドローンの様々なユースケースを実現するための基盤を整える戦略や、官民での役割分担にも、さらなる取り組みが必要であった。 今後のプロジェクトは、ビジネスを成長させるシナリオに基づいた開発技術を活かす活動にも力を入れ、我が国の市場競争力を高め、社会実装を加速すべきである。 ドローンの第二種型式認証については、NEDOのプロジェクトだけで解決できる話ではないが、他の省庁なども巻き込んで国全体として、効率的なあり方などの議論が必要であった。 アウトカム目標である2030年の市場規模では、市場形成について具体的な裏付けに欠けていた。 小型無人航空機に関する事業なので、安全とは何かの議論を事業の最初に展開すべきであった。 今後は、欧米を中心とする海外市場の動向を的確に把握するとともに、本事業での経験を活かし、アウトカム達成に向けた戦略やプロジェクトの研究開発計画を見直しながら後継事業をすすめていくことに期待したい。 			